



長崎医療センター
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS

2025
JANUARY
VOL. 431

発行所

独立行政法人国立病院機構
長崎医療センター

〒856-8562
長崎県大村市久原2丁目1001-1
TEL 0957-52-3121
FAX 0957-54-0292

専齋 SENSAL



院長年頭所感

幹部職員 新年のご挨拶

年男・年女の今年の抱負

長與 専齋 (1838年～1902年)

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめて採用したのも専齋である。専齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

院長年頭所感

『しなやかに変化』
～希望の未来を切り開く～

院長 高山 隼人



新年、あけましておめでとうございます

2025年の干支は「乙巳(きのと・み)」です。「乙」は陽が十分に伸び切っていない様子やしなやかに伸びる草木を表しています。「巳」は草木などが極限まで成長する様子や蛇のイメージから「再生と変化」を意味します。職員のみなさんが努力することで成長の芽が始め、早い方は大きく芽吹く年となります。

昨年は、医師の働き方改革や経営問題で職員の皆さんに協力をお願いすることが多く、一丸となって乗り越えてきました。ありがとうございます。

また、近隣の医療関係者の皆様との連携により、高度急性期としての機能を維持することができました。御礼申し上げます。COVID-19により医療機関のタスク・シフト(役割分担)が進みましたが、今後は対面での連携とIoTを使った情報連携を高めタスクシェア(役割共

有)を行い補完し合うことで、面として地域の医療を支えることに繋がると考えます。

当センターの使命として、1. 安全で質の高い医療を提供する。2. 救急医療の最後の砦となる。3. 地域の医療機関、行政と密接に連携する。4. すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する。5. 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する。が掲げられており、これが長崎医療センターの軸になります。10年後50年後も「地域や職員から信頼される病院」でありたいと思っています。

今年の病院目標は、

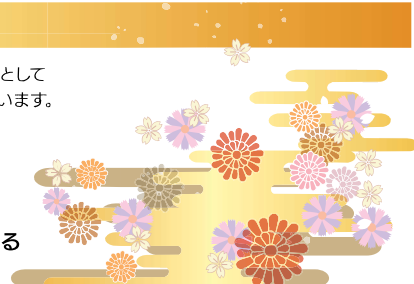
『**心理的安全性を保ちながら、患者に安全、安心の医療を提供する**』です。

しなやかに変化し、希望の未来を切り開いていきたいと思います。

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実にを行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

安全で質の高い医療を提供する
救急医療の最後の砦となる
地域の医療機関、行政と密接に連携する
すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する



新年のご挨拶(幹部職員)



副院長 吉田 真一郎

向上

新しい年を迎え、皆さまにとってこの一年が実り多い素晴らしい年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

年末年始の期間中、救急患者や重症患者への対応に尽力してくださった職員の皆さんに、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

今年、当院は病院機能評価の更新受審を予定しています。この評価は、当院の医療が安全で質の高いものであることを確認し、さらに向上させる大切な機会です。受審に向けて、職員一同力を合わせて準備を進めてまいりますので、どうぞご支援をよろしくお願いいたします。

地域医療連携の充実にも引き続き力をいれて取り組んでまいります。昨年11月には、当院として初の「病病・病診連携の会」を開催し、地域の多くの関係の皆さまにご参加いただきました。皆さまからいただいた貴重なご意見も活かし、地域の皆さまの期待に応えるさらに質の高い医療を提供できるよう努めてまいります。

本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。



副院長 黒木 保

明るく楽しく前向きに

新年あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、さわやかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

私の副院長業務の柱として「医療安全」があります。医療の現場では日々多くの課題に直面しますが、病院全体で「一体感」をもって努力を重ねてきました。今年も引き続き「患者さんに安全な最先端の医療を提供する」ため、全職員一丸となって取り組んでまいります。

さて、このSENSAIにも掲載させていただいている“ガーデニング便り”を今年もよろしくお願いいたします。我が家の庭の定番に「センニチコウ」があり、花言葉は「安全、変わらない愛情」で、漢字では「千日紅」と書き、長期間色あせないことが名前の由来とのこと。

病院運営における私の思いは、職員の方々が楽しく仕事ができ、患者さんが少しでも笑顔になれる明るい病院であることです。病院全体で「一体感」を醸成し、大変な状況に際してもベクトルを1つにできる力強い病院を目指したいと思います。

今年の干支は巳です。「巳」を「実」にかけて「実を結ぶ年」とされるそうです。皆様にとって実り多い年となりますよう祈念しております。今年もよろしくお願いいたします。



臨床研究センター長 田川 努

背負う

明けましておめでとうございます。2025年が皆様にとってよい年となるように心よりお祈り申し上げます。さて、今年の言葉は重くて恐縮ですが「背負う」にしました。私はこれまで多くの患者さんを治療してきましたが、最近自分の仕事の責任の重さをあらためて感じています。困難な手術、いろんな内科疾患を抱えた方もいました。手術合併症が発症して申し訳ない時や肺がんが再発した時に思うのは、我々は患者さんとその家族の人生を背負っているということです。日々の診療や治療方針の決定、手術が適切にできたかどうかでその後は異なります。皆さんもあの時あすれば結果は違ったかもと思った経験があるはず。医療従事者が担っているのはそういう責任の重い仕事なのです。最近「私」が尊重される時代になりました。しかし人の人生を背負うからには、「私」を2番目に置く気概は必要と信じます。年の初めにあたり自分はなぜ医療を仕事に選んだのか思い出してみませんか。



統括診療部長 本村 秀樹

成長

新年あけましておめでとうございます。今年は巳年です。へびは脱皮を繰り返して、成長していきます。その抜け殻には金運がよくなる力があるという言い伝えもあり、こっそり財布に忍ばせておられる方もおられるかもしれません。去年は医療にはとても厳しい年でしたが、今年は思い切った脱皮をして、その抜け殻を忍ばせながら新しい医療を築いていきたいと思っています。しかし、猛毒をもつ蛇に噛みつかれるととても大変なことになります。こわい蛇にならないように注意していきたいと思っています。今年もよろしくお願いいたします。

新年のご挨拶(幹部職員)



事務部長 村上 和明
安定

あけましておめでとうございます。
皆様方におかれましては、新春を晴々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。
令和7年の干支乙巳(きのとみ)は、「努力を重ね、物事を安定させていく」という意味合いがあるそうです。
昨年は、新たな取組等により多少ではありますが病床稼働率も向上し、収支状況が良好な月もありました。本年においても更に取り組みを推進し安定した経営基盤が確立できるように努力をしてみたいと思います。
また、本年の大きなイベントとして病院機能評価の受審があります。事務部門といたしましても一丸となって受審に向けた取り組みを進めてまいりますので、ご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。
今年もどうぞよろしくお願いいたします。



看護部長 太田 恵子
感謝

謹んで新春をお祝い申し上げます。
職員の皆様におかれましては、病院という特性上、年末年始もお仕事の方も多いと思います。皆様のおかげで必要とされる患者様に途切れのない医療・看護が提供できることに感謝申し上げます。さて、2024年は能登災害に始まり波乱の幕開けでした。2025年は除災招福を祈念して一年を始めたいと思います。2024年度の当院は重点支援病院に指定され、経営改善に向けて職員一丸となり目標達成に向けた様々な取組をしていただいています。おかげさまで少しずつその効果が数字となって報告されることが増えてきました。一人ひとりの長崎医療センター愛を糧とした努力の賜物であり「やればできる!」という言葉を実現化できたと感じております。そして管理者として目標を明確にすることの大切さを改めて感じたところでした。地域に向けてなくてはならない長崎医療センターとして院内だけではなく院外にも目を向け、今年度も第12回の長崎県看護管理者研修をはじめ5年ぶりの開催となった九州グループ成育医療エキスパートナース研修、看護部長協議会九州支部主催の令和6年度新任副看護部長研修など専門・管理者向けの研修を多く企画運営することができ受講された方々からは好評を得ることができました。病病連携・病診連携の会でもたくさんの地域の医療者の方にお声掛けをいただきありがとうございました。次年度は機能評価受審を控え、この勢いで職員の心をひとつにして乗り切っていきたいと思います。今年も看護部に多くのご支援をお願いします。

年男・年女の今年の抱負

新年あけましておめでとうございます。
昨年4月に南九州病院より転勤で長崎医療センターに来ました。
私には、成人を迎えた息子が2人います。異動を機に、子ども達と遠く離れた事がなかったので、最初は心の中が寂しさでいっぱいでした。23年振りの1人暮らし。1人の時間の過ごし方もわからない状況でしたが、病棟スタッフや周りの方々に支えて頂き、一歩ずつ生活に慣れる事ができました。まだまだ慣れない事があり、皆さまにご迷惑をおかけするかと思いますが、一生懸命頑張っ
て参りますので、本年もよろしくお願い致します。また、子離れもできるように頑張ります。

看護部5A病棟 辻 智子

新年あけましておめでとうございます。
昨年は、ロボット支援手術が始まりいろいろな変革がありました。
今年も、いろいろと課題が出てくると思いますが、粘り強く一つ一つクリアして成長していきたいと思っています。
実は、私は12年前にも新年の抱負を書かせていただきました。
その時は45歳にして未だに現役Jリーガーとして試合に出ている三浦知良に負けずに体力を維持していきたいと目標を立てました。が、まさかカズが12年後未だに現役選手としてサッカーをしているとは思いませんでした。
まだまだやらないといけないですね。

臨床工学室 杉山 哲司

新年明けましておめでとうございます。
年男といってもあまり特別な感じはしませんが、今年は健康を心がけて仕事もプライベートも昨年よりもさらに充実した時間を過ごせるように努力し、実り多い1年にしたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。
最後になりますが、皆様にとって本年が健康で素晴らしい1年になりますよう心からお祈り申し上げます。

臨床検査部 武藤 憲太

明けましておめでとうございます。
3回目の年男となり、自身の環境も変化してきた印象です。長崎医療センターでの勤務も3年目となり、プライベートでは長女が小学校入学となり毎日楽しく過ごしています。業務に関しては初めての急性期を経験し、DMAT業務調整員として昨年1月に発災した能登半島地震への派遣も経験させていただきました。今年1年は仕事、プライベート共に充実した1年を送れるよう日々努めていきたいと思っています。

リハビリテーション科 北村 恵一